

2023
特選
日本PTA全国
協議会会長賞

第56回「おかねの作文」コンクール

お金の価値は同じなのか

千葉県・松戸市立第一中学校 2年 栗栖 琴音

私には、欲しい服がありました。なんとしてでも手に入れたと思ったのです。金額は8,000円です。誕生日は既に過ぎており、母に買ってと頼んだら「同じような服持っているでしょ」と却下されました。でも欲しい気持ちは抑えられず、どうすべきか考え、まずは部屋中のお金をかき集めました。出てきたのは2,458円です。あと5,542円足りません。母に相談すると不要な物を売って見たらと、アドバイスされました。私の部屋は、物が多かったので売れそうな物は沢山ありました。人気キャラのフィギュアもあり、もしかしたら1万円すら軽く超えてしまうのではないかと私の心は躍りました。瞬間に段ボール箱はいっぱいになり、母と一緒に売りに行ったところ、私は耳を疑いました。「756円になります」。信じられない、購入金額は1万を超えているはずなのに悲しくなりましたが、キャンセルしますとも言えず小銭を握りしめて帰宅しました。あと4,786円必要です。ここで落ち込んでいても仕方ないと気持ちを切り替えました。

次に挑戦したことは家の手伝いです。暇さえあれば「何か手伝うことある」と家族に聞いていました。1回50円程度だけど、1週間で1,500円にはなりました。残り3,286円です。

そんな時、祖母の家に遊びに行く機会がありました。中学生になってから部活も忙しく、会う回数は減っていました。祖母は別れ際、「琴音ちゃんに久々に会えて嬉しかった。少ないけれど、これで好きな物を買いなさい」と言って、5,000円をくれました。なんて素晴らしいタイミングだと、祖母に感謝の気持ちを何度も伝えました。こうして8,000円の予算は達成されたのです。

次の週末、私は早速お店に行きました。欲しかったあの服を手に取り試着したけれど、購入することはありませんでした。洋服は可愛いけれど、このお金を使う程欲しかったのかが分からなくなったのです。今まで8,000円の服を買ったことがなかったわけではありません。自分の感情を言葉にできなくて親に話

したら「お金の価値は変わらなくても、お金の重みが変わったのよ」と言われました。そのお金を手に入れる為に努力した自分や協力してくれた人の気持ちがお金にプラスされたからということが分かってスッキリしました。

そのお金のうち1,000円を使って、たい焼きを5個買いました。家族と祖母の分です。そのたい焼きの味がいつもよりおいしく感じたのは、そのたい焼きの味にも思い出という重みがついたからなのかもしれません。

あの経験は、私を変えてくれたと思います。それまでは、新作お菓子を探しにコンビニになんとか行っていたことも多かったのですが、本当に欲しい物が見つかった時にお金がないのは嫌だなと思いコンビニに行く回数が減りました。習い事や生活面でもお金を稼ぐことが大変なのに、そのお金を自分に使うことができることのありがたさを感じました。

祖母からもらった5,000円は、可愛いポチ袋に入れて大事にしまってあります。この5,000円を使ってもいいと思う物が見つかる日が楽しみです。

